

社会の変化に対応し、よりよい社会を創造する力を育てる社会科学習

－揺れ動くヨーロッパを支えるEU 「統合」は最適解か？－

- 1 主題設定の理由
- 2 本研究でめざす子ども像
- 3 めざす子ども像に迫るために必要な能力
- 4 能力を育むためのてだて
- 5 授業実践例
- 6 研究のまとめと今後の課題

第3分科会
社会科教育
B 現状認識

河本 晋也（春日井・西部中）

研究の概要報告

1 県内の自主的な研究活動のとりくみ状況

72次をむかえた教育研究愛知集会では、各参加地区より19本のレポートが提出され、質疑応答や討議が活発に行われた。レポートでは、言語活動の工夫や地域素材を教材化することで社会に対する見方・考え方を育てる実践や、仲間とかかわりながらよりよい社会づくりへの参画をめざした実践などが報告された。

地理学習では、地域素材を教材化したり、ゲストティーチャーや他地域に住む人と通信アプリを使って情報を直接得たりすることで学ぶ意欲を高め、社会参画の意識や多面的・多角的な考え方をのばす実践が報告された。歴史学習では、ICT機器を活用したり、思考ツールを活用しながら話し合いを深めたり、考えを視覚的に表現するワークシートを工夫したりすることで、歴史的事象を的確にとらえ、自他の考えを比較したり練り直し、各時代の特色を明らかにする実践が報告された。公民学習では、模擬裁判やさまざまな判例、裁判員制度の是非などの討論活動を通して社会への参画意識を高める実践が報告された。また、コロナ禍における営業規制と飲食店側の社会権や自由権などさまざまな権利の対立を通して、社会の諸問題を自分事としてとらえ、よりよい社会づくりへの参画をめざす実践が報告された。

どの分野においてもICT機器やゲストティーチャーを効果的に活用したり、さまざまな思考ツールを活用したりすることで、社会への参画意識や多面的・多角的に考える力をのばす実践が報告された。

2 本次教育研究集会で論じられた主な課題

昨年までの成果と課題をもとに、子どもたちの学ぶ意欲を高める学習活動や教材開発について議論が行われた。参加者からは、ICT機器や思考ツールを有効しながら可視化したり、地域の課題を教材として取り上げ、切実感をもたせたりすることの大切さが話し合われた。さらに、地域教材の価値や教材化のポイントは何かという議論については、自分たちの地域だけでなく他地域と比較することや、資料の精選や量、質の大切さ、ゲストティーチャーの有効活用などがあげられた。また、先人の働きを理解し、子どもが切実感を高めるための教材開発については、ロールプレイングを行って先人の願いや思いをもたせたり、過去から学んだことを現在に置き換えたりするなど、さまざまな意見が出された。さらに、社会参画の意欲を高めるための学習活動のあり方についての議論では、社会参画の行動を求めず、価値判断をもたせながら社会参画への意欲を高めるべきとの意見には、多くの参加者が賛同した。

これからも学ぶ過程において、子どもたち一人ひとりの「学びたい」「わかりたい」という学習に対する追究意欲を大切しながら、主体的に活動しようとする姿勢を育むことに期待をする。

(土屋武志・牛島康太郎)

報告書のできるまで

1 研究の具体的な経過

第71次までの教研活動の実績をふまえ、各単組社会科研究会を中心に、継続的・実践的研究が行われ、各単組で研究内容が発表・検討された。そして、それぞれの単組の研究報告が10月15日、愛知県産業労働センターで開催された県集會に集結し、報告・検討された。

2 研究組織とその参加者

第72次教育研究愛知県集會 社会科分科会 役員等

助言者	真島 聖子 (愛知教育大学)	垣谷 英秋 (豊田・高岡中)
	土屋 武志 (愛知教育大学)	牛島康太郎 (名古屋・宮中)
司会者	古居 成幸 (西尾・八ツ面小)	中西 悠 (岡崎・豊富小)
	酒井 孝康 (岡崎・城南小)	荻野 達成 (豊橋・石巻中)

教育課程研究委員

部長	後藤 俊輔 (名古屋・金城小)	
副部長	池部 弘樹 (碧南・東中)	西脇 佑 (名古屋・神丘中)
委員	早瀬 友浩 (尾張旭・西中)	伊藤 宏将 (海部・弥富北中)
	甲斐 俊晃 (名古屋・中小田井小)	松田 拓也 (豊橋・東陽中)
	野口 哲平 (名古屋・志段味中)	

1 主題設定の理由

わたくしたちはこれまで、子どもが主体的に課題を追究する活動を通して社会認識を深め、めざす子ども像に迫るための実践を積み重ねてきた。変化の激しい社会を生きる子どもには、課題解決のために必要な情報を判断して活用する力やそれらの情報をもとに自分の考えを深化させる力、よりよい社会のあり方について価値判断する力が必要だと考えた。そこで、研究主題を『社会の変化に対応し、よりよい社会を創造する力を育てる社会科学習』とし、多くの資料の中から必要な情報を読み取り、対話を重ねることで自分の考えを深め、課題に対する自分の結論を出させる実践にとりくむことにした。

また、GIGAスクール構想による一人1台端末や高速通信ネットワークの整備、新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限など、子どもを取り巻く教育環境は大きく変化している。そのような今だからこそ、子どもが社会的事象と向き合う社会科授業のあり方について改めて研究をすすめていく必要があると感じるようになった。そこで、現在の状況に合わせた学習環境で、子どもが社会認識を深めていけるような実践にとりくむことにした。

2 本研究でめざす子ども像

社会の課題について、対話を通して自分の考えを深め、よりよい社会のあり方について価値判断できる子

3 めざす子ども像に迫るために必要な能力

- 必要な情報を見つけ、活用する力
(情報活用力)
- 情報や他者の考えにふれ、自分の考えを深化させる力
(自己教育力)
- よりよい社会のあり方について判断する力
(価値判断力)

4 能力を育むためのてだて

(1) 切実感のある課題の設定

切実感があり、答えを一つに絞れないような課題を設定する。それにより資料から安易に答えを探そうとするのではなく、自分なりの答えを導くことができるようになる。

(2) 一人1台端末の活用

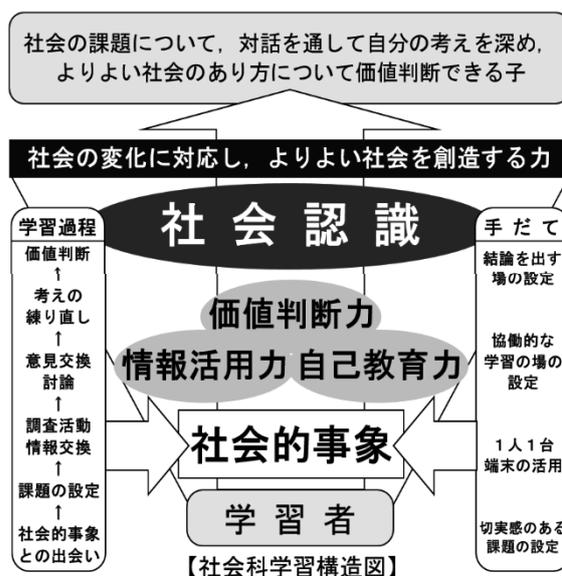
一人1台端末を活用し、必要な情報を見つけ出したり自分なりに整理・分析したりする活動を繰り返すことで、情報活用力が育まれると考える。

(3) 協働的な学習の場の設定

意見交換や話し合いなどの活動を通して、他者の考えにふれ、自分の考えとの共通点や相違点に気付かせるようにする。他者の考えを尊重し、課題解決のために社会の一員として自分にできることを他者とともに考えていく活動を取り入れることで、自己教育力が育まれると考える。

(4) 課題に対する結論を出す場の設定

対話を繰り返した後、それまでの学習を振り返る時間を設けた上で、結論を出させる。独りよがりではなく、よりよい社会のあり方に関心を寄せ、根拠にもとづいて多くの人が共感できる結論を考えることで、価値判断力が育まれると考える。



5 授業実践例

(1) 単元名 揺れ動くヨーロッパを支えるEU―「統合」は最適解か?― (中学1年)

(2) 単元の目標

ア EUに加盟するかを日本の立場から考えることで、統合による影響を深く理解することができる。

イ 国どうしの統合の是非を多面的・多角的に考え、意見を表現することができる。

(3) 単元の指導計画

ア 単元設定の理由

生徒はロシアがウクライナに侵攻しているニュースに衝撃を受け、ヨーロッパに対する関心の高さがこれまでにないものとなっている。しかし、一部の生徒は偏った情報をもとに差別的な発言をすることがあり、一面的に社会的事象をとらえている様子もみられる。

そこで本実践では、ヨーロッパの現状をもとに単元を構成した。まずウクライナが侵攻された直後にEUへ加盟申請したことをとり上げ、国どうしの統合について関心をもたせる。そして、現在のヨーロッパの土台となっているEUについて、移民や環境問題などの政治面や通貨統合や経済協力などの経済面から考えさせたり、各国の立場からEUをとらえさせたりすることで、より多面的・多角的に分析させる。最後には、学んだことをいかしながら、日本がかかえる課題についても関心をもたせ、その解決に統合という方法が有効かどうかまとめさせる。このように他の生徒との対話から、自分の考えを練り直したり、最適解を見つけ出したりする活動を通して、よりよい社会のあり方について価値判断できる生徒を育てていきたい。

イ 生徒の実態

海外で起きた出来事について興味や関心が高い生徒が多く、さまざまな媒体から情報を得ることができる。一方で、ヨーロッパは遠く、自分にとってあまり関係のない地域だと考えている生徒もみられる。また、多面的な見方から自分の意見をまとめたり、根拠をもとに考えたりすることができる生徒は少ない。

(4) 授業展開 (6時間完了)

時	生徒の学習活動	留意点
①	ヨーロッパの統合について調べ、課題をつかもう ○ ウクライナのEU加盟を申請から、EUへの興味をもつ。 ○ 統合のメリット・デメリットを予想する。 ○ 意見文を書く。	・教科書を中心に情報を収集・整理させる。
②	EUのメリット・デメリットを理解しよう ○ EUについての情報を収集し、分析する。 ○ 意見文を書く。	・政治面や経済面などのメリット・デメリットに気付かせる。
③ ④	各国の立場からEUのメリット・デメリットを考えよう ○ 各国の立場からEUのメリット・デメリットを整理する。 ○ 最終的な意見文を書く。	・国によってメリットやデメリットが異なることに気付かせる。
⑤ ⑥	日本の課題について調べ、統合が最適解か考えよう ○ 日本の立場から意見を考え、意見交換をする。 ○ 自分の考えを練り直し、模擬投票を行う。 ○ 単元の振り返りを書く。	・意見交換を通して、考えの練り直しをさせる。

(5) 授業実践の記録および資料

〈第1時〉ヨーロッパの統合について調べ、課題をつかもう

前単元で日本の領土問題を学んだことを想起した。その後、世界で起きている領土問題を知っているか尋ねると、ロシアによるウクライナ侵攻についての発言があった。そこで、侵攻が始まった四日後にウクライナがEU加盟を申請したという記事を提示した。すると「EUとは何か」とつぶやく生徒がいたので、EUについて簡単に説明し「統合」という言葉が単なる同盟とは異なることを伝えた。「統合すると、どこにでも行けるから便利だ」という発言があったので、統合するとどうなるかを予想した。

生徒の予想	
<ul style="list-style-type: none"> ・もしもの時に助け合える。 ・旅行がしやすくなる。 ・資源などをみんなで作れる。 ・ものの移動が容易になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の文化が無くなる。 ・宗教や考えの違いから争いが起きる。 ・言語の違いによる不便さがある。 ・差別が生まれる。

予想を確かめるため、班でクラウド上の電子黒板を使用し、EUの情報を収集した。すると、加盟国内ではパスポートが不要であることや、27か国が加盟していることなどがわかった。

「EUがあるヨーロッパはいいな」とつぶやく生徒がいたので、EU離脱を決め、喜んでいるイギリス国民の写真を提示した。すると「喜んでいるということは、マイナスの側面もあるはずだ」と発言する生徒がいた。そこで統合が各国にどのような影響を与えるのか追究するため、課題として「EUは、今後も続けるべきなのか」を設定し、初発の意見を書いた。

課題に対する意見（第1回）	
続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・EU内で国境の通過が自由で、協力して地球に優しいことをしているところがよいと思ったから。 ・戦争などの緊急事態があったら助け合えたり、物資を運びやすかったりするから。 ・旅行をする時に同じ通貨で便利だし、産業がより活発になると思うから。
続けない	<ul style="list-style-type: none"> ・各国固有の文化がなくなったり、言語の違いによってトラブルが起きたりするかもしれないから。 ・統合しなくても助け合えるから。 ・一つの国が辞めてよかったと思うのであれば、辞めるべきだと思うから。

〈第2時〉EUのメリット・デメリットを理解しよう

前時の振り返りをすると「課題について判断するための情報が少ない」と発言する生徒がいた。そこでEUについてさらに調べていくことにした。そして、前時で使用した電子黒板に、統合についての情報を追記し、メリット・デメリットに分けさせた。さらにそれらを分類すると、メリット・デメリットが、経済面や政治面にも分類できることに気がついていった。その後、これまでの学習をふまえ、2回目の意見を書いた。

4班	メリット:	EUとしてまとまったほうがアメリカや中国等の大国と有利に競争できる	EUの東部や南部から来る外国人労働者が増えている	国を超えて仕事を選べる	ものの移動に税がかからない	列車に乗ったまま自由に国境を超える
	デメリット:	リサイクル率が高く、家庭の電化製品のリサイクルはEUが共同で行っている	EUでは農薬の使用量を減らしている	火力や風力などの再生可能エネルギーを利用した発電も進めている	大国とも渡り合える	悲劇を繰り返さないよう平和と共存共栄を目的としている
競争社会が広がる	補助金などを運ぶ加盟国の間の対立も問題	独自の考えが反映されにくい	その他:	ヨーロッパ連合	地方の経済を活性化させて格差を解消することを目指している	人口は約5億人
経済格差の課題がある	職を奪われる	ひろさは11倍	世界の経済や政治に大きな影響をあたえている	通貨がユーロに統一されている	EUは...1993(平成5年)年にEUが成立した	2016年6月にEUに加盟し続けるのが困難なイギリスで行われた。
						2020年6月現在の加盟国27カ国

【資料1 生徒が分類したメリットやデメリット】

〈第3・4時〉各国の立場からEUのメリット・デメリットを考えよう

前時の振り返りをすると「イギリス以外の国で離脱しようとしている国はないのかな」という声があがったので、各国の立場からEU加盟について調べていくことにした。設立時から加盟しているドイツ、離脱したイギリス、東欧のクロアチア、加盟を希望するトルコを指定し、各班一人ずつがそれぞれの国を担当した。初めは一人で調べている生徒が多かったが、他の班の生徒と協働してとりくむ姿も見られるようになった。調べ学習の後、各国の立場から見たEU加盟について全体で確認した。



【資料2 活動の様子】

各国の立場から見たEU加盟のメリット・デメリット		ドイツ	イギリス	クロアチア	トルコ
政治面	メリット	・平和	・EU軍	・インフラ整備のための受取金 ・平和	・EU軍として軍事力が上がる ・人口が多くEU内での発言力が強くなる
	デメリット	・拠出金が高い	・政策が限られる ・外国人労働者が増える		・宗教の違い
経済面	メリット	・経済的に黒字 ・技術協力	・関税なし	・他の国で働ける ・観光客が増える	・技術発展 ・欧州での就職
	デメリット		・金融政策が自国で決めづらい	・国内労働者の減少	

調べ学習を通して気付いたことを尋ねると「メリットが大きい国は加盟し続けている」「経済的な理由で加盟している国が多い」などがあがった。その後、3回目の意見を書いた。

課題に対する意見（第3回）	
続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・交通インフラが整備される、給料のよい国で働けるなどのメリットが多い。一番のメリットは平和が続くことだと思う。 ・ルールは厳しく、考え方が違うため問題もあるだろうが、メリットが大きいと考えている国が多い。 ・環境問題の解決に協力してとりくむことができる。
続けない	<ul style="list-style-type: none"> ・協力できるというメリットもあるが、一つの国で独立したほうがEU法に縛られずに自由に決められるから。 ・仕事が奪われて生活が苦しくなる国民が多くいるなら、加盟しないで今まで通りの生活ができたほうがよいと思う。EUとしてはまとまるかもしれないけど国民一人ひとりの意見が反映されにくい気がするから。

Aの考えの変容	
第1回	続けるべきだと思う。関税がなくて、パスポートもいらないから。
第2回	わからなくなってきた。貧しい国の人々は豊かな国に移っていき、貧しい国で働く人が少なくなってしまうのではないかと。しかし、国と国の移動が楽で、通貨が同じというメリットもある。もっと勉強すると、意見が固まりそう。
第3回	続けるべきだと思う。外国人労働者が所得の高い国に集まったり、政策が限られたりするけど、経済のため、平和のためにEUがあるということを見ると、続けた方がよいのだと思った。さらに、移動がしやすくなって、観光客が増えるということもよいことだと思う。しかし、考えや宗教の違いから加盟できていない国もあるということがわかった。

〈第5・6時〉日本の課題について調べ、統合が最適解か考えよう

前時を振り返り、イギリスが離脱した主な理由が移民の増加であることを確認した。移民や難民の資料を見せると「イギリスはこれだけ多くの移民や難民が来ているから問題になるだろう」と発言する生徒がいる一方で、日本の難民の受け入れ数が他の国より明らかに少ないことに気付く生徒がいた。「日本には難民を受け入れてほしいが、アフリカなどから遠いため難しいな」と発言する生徒がいたので、もし仮に日本がイギリスの位置にあったら移民・難民を受け入れるのか、またそれによりどのような影響があるのか考えてみることにした。

調べていくと日本がかかえる課題は、難民の受け入れ数が少ないことに加え、働く人が少ないことやフードロスなどがあることがわかった。そこで、日本がかかえる課題は、EUのような地域統合に加盟することで解決するのかどうかを考えるため「もしも日本がイギリスの位置にあったら、EUに加盟しますか」という課題をさらに設定した。これまでのノートや電子黒板の内容を振り返ったり、近くの生徒と話し合ったりしながら考える姿がみられた。数人に発表させた後に「今考えたものは他の人が納得できる意見ですか」と問うと「実際にそんな都合よくいく気がしない」「自信はない」という反応だったので、次時では自分の意見をより納得できるものにまとめ、イギリスが国民投票で決めたように模擬投票を行うことにした。

新たな課題に対する意見	
加盟する	加盟しない
<ul style="list-style-type: none"> ・加盟することで働く人が増える。 ・フードロスの問題が改善される。 ・関税が撤廃されて経済が活発になる。 ・ジェンダーの問題、環境問題と一緒にとりくむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の問題がある。 ・日本の文化を失うかもしれない。 ・ルールが厳しい。 ・日本の課題が解決するとは思えない。 ・死刑制度が廃止になるかもしれない。

第6時では、最後の模擬投票にむけて考えを深めるために意見交換を行った。その際には相手に具体的な説明を求めただけでなく、相手の考えを批判的にとらえ、質問することを意識させた。各グループでの意見交換では自分の意見と比較し、共感したり、違いに気付き指摘し合ったりする姿がみられた。その後、もう一度課題に対する考えを記入した。



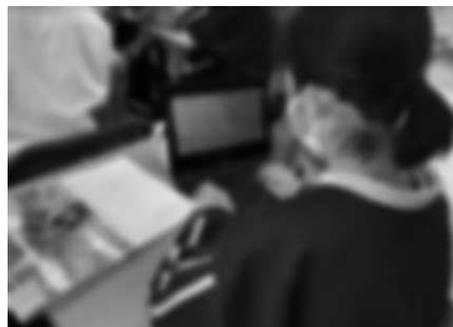
【資料3 意見交換】

考えの変容		
	第1回	第2回
B	加盟しない。アメリカと仲がよく、EUの中で日本の意見が反映されないかもしれないので、加盟しなくてもよいと思う。	友だちの意見を聞いて、デメリットもあるけれど、メリットもたくさんあるから加盟してもよいと思う。日本は移民や難民を受け入れることになるけれど、働く人が増えると思う。
C	加盟する。理由は、たくさんの国と協力することで、日本の貧困問題、働く人などが解決できると思ったから。そして、何より世界が平和で安全になる。でも加盟することで、意見が対立したり、ルールが厳しくなったりするので、そこがデメリットだと思う。一回入ってみて、EUに残ったほうがよいのか考えるのもありだと思う。	加盟する。争いが起きたり、問題が起きたりするという意見が出たけれど、そのような問題をなくすためにEUがあると思う。またEUへの加盟をよいと思う国は入ればよいと思った。すると、争いが減ったり、意見が同じになったりと思う。そして、国どうして支え合い平和な世界になると思ったので、EUに加盟する。

その後模擬投票を行った。結果は加盟するが40.2%、加盟しないが59.8%となり、結果を見た時には驚きの声があがった。中には「もっと多くの人の意見を聞いてみたい」という声もあった。最後に単元を通しての振り返りを書いた。

生徒の振り返り

- ・ヨーロッパの統合がよいことだと思った部分もあったけど学習するうちに、イギリスの離脱につながるデメリットも見えてきた。EUを続けるべきかや、日本が加盟するかの課題について、自分と違う意見が聞けて、違う見方があるなど思った。
- ・どの国も自分の国のことを考えつつ、平和とか環境のことも考えていると思った。加盟するかを考える時に、自分のことを考えるだけでなく、いろいろな人の立場とか、もしもの場合のこととかを考えて決めることが大切だと思った。
- ・EUへの加盟は国の大きさや位置によってメリットやデメリットに差があることがわかった。意見を出し合うことで最初よりよい意見が書けたと思う。
- ・最初は統合して平和に暮らすことは、すごくよいことだと思っていたけど、やはりデメリットもあるなど思った。経済的にも政治的にもメリットの方が多いので、今後もEUは続けてほしいと思った。国どうしを比べるとメリット・デメリットに違いがあることがよくわかった。比べることによって気づきがたくさんあると感じた。
- ・統合にはメリット・デメリットの両方があった。メリットは、他国へ自由に行き来できたり、共通の通貨で買い物ができたりして便利になることだ。また軍事的にも政治的にも大きなまとまりになった方が強くなれると思う。デメリットとしてはももとの法律とEUの法律が合わさって複雑になってしまったり、移民が増えて仕事が取られたりするかもしれないということだ。



【資料4 振り返りの記入】

(6) 考察

ア 統合という観点に特化し、ヨーロッパ州で学んだことを日本とつなげて考えさせたことで、はじめは、統合による影響を一面的な見方しかできなかった生徒が、さまざまな観点で考えたり、それらに関連付けたりすることができた。その結果、統合による影響を深く理解することにつながった。

イ EUについて一人1台端末を活用しながら協働的に分析することで、EU加盟のメリット・デメリットだけでなく、政治面や経済面にまで分けられることに自ら気づき、各国の立場からもEU加盟について考えることができた。また、毎時間意見を書く時間をとり、振り返ることで自己の変容をとらえることができた。日本の立場から考える活動では、意見交換を通して考えを練り直し、自分の考えを深めることができた。

6 研究のまとめと今後の課題

わたくしたちは、追究意欲を高められる素材を教材化し、子ども自身が対話を通して考えを深め、価値判断を行う実践にとりくんできた。本年次の成果は、多くの資料や当事者の思いにふれたり一人1台端末を活用して協働的に情報を整理・分析したりしたことで多面的・多角的に考えることができ、よりよい社会を創造する力を育むことにつながったことである。

課題としては、子どもの発達段階に応じた課題設定の難しさを感じた。子どもによっては難易度が高く見通しがもちづらかったり、スムーズに学習がすすまなかったりすることがあった。子どもの実態や既習内容を正確に把握し、計画を立てることの重要性を再認識した。今回の成果と課題をいかし、これからも研究をすすめていきたい。